

東亜同文書院の教育に関する多面的研究

石田 卓生 [著]

2019 年
3 月刊行

定価：7,000円＋税

体裁：A5判・上製・510ページ

ISBN978-4-8350-8275-2



◎推薦のことば

藤田佳久（愛知大学名誉教授・地理学）
（愛知大学東亜同文書院大学記念センター）

東亜同文書院（のち大学）は、1901 年日本の学校として中国上海の地に設立されて半世紀、敗戦の年に閉学したが、その教育活動は、帰国した教員と学生を中心に、ほかの外地からの引揚げ学生や教員も加えて 1946 年に設立された愛知大学（旧制）に継承されている。東亜同文書院の設立目的は、日清間の貿易を発展させ、列強にも対抗できる国際的ビジネスマンの養成にあった。著者の石田卓生氏は「満洲国」文学を研究する中で対象者が東亜同文書院出身であったことから関心を持ったという。

本書は、観念論ではなく、実証論として、その前半は、ユニークな歴史を持つ書院について、人物史からの視点も

ふまえて丁寧に論じつつ、新たな知見も示し、各論的な論述を展開した。後半では、戦前日本の高等教育機関で唯一、中国語を第一外国語として教育したその教育システムの解明に挑戦し、それぞれ成果を挙げた大著である。

中国語教育担当者が、前身の日清貿易研究所時代の中国語教育を前提としつつ、書院生の「大旅行」にも使える実用会話を含めて、書院独自の教材開発を進め、中国語テキスト『華語萃編』を作り上げていったその変遷過程を、統計的クラスター分析も用いて明らかにし、また、従来の中国語教育では未開であった語学としての中国語文法確立への試行を進めていたことも明らかにした。その上で書院の中国語教育を日本の中国語教育の中に位置づけようとしている。

今、書院への関心が高まりつつある。まだ十分には知られていない書院、そして近代日中関係史の世界をこの書からのぞいてみませんか。

■発行所 不二出版株式会社 〒112-0005 東京都文京区水道 2-10-10 TEL03-5981-6704 FAX03-5981-6705
郵便振替 00160-2-94084 <http://fujishuppan.co.jp> administrator@fujishuppan.co.jp

注文カード	注文日 月 日	帖合・貴店名	書名	注文数
			石田 卓生 = 著 東亜同文書院の教育に関する多面的研究 定価 本体 7,000 円 + 税 ISBN978-4-8350-8275-2 C3021	冊
		条件：注文扱・返条付		お名前
		ご担当者様	発行 = 不二出版	☎

目次	v
第2節 戦前の良政伝	297
第1項 消息不明時期	297
第2項 洪兆麟証言以後	300
第3節 戦後の良政伝	309
第4節 山田良政の遺難について	318
第5節 おわりに	321
第3部 東亜同文書院の中国語教育	
第1章 日清貿易研究所と東亜同文書院で使用された御幡雅文『華語跬歩』について	331
第1節 はじめに	331
第2節 瓊浦揮應未迄稿『華語跬歩』全と御幡雅文混纂『華語跬歩音集』	331
第3節 御幡雅文『華語跬歩』下編（日清貿易商会蔵版）	333
第1項 御幡雅文『華語跬歩』上編（日清貿易商会蔵版）について	335
第2項 荒尾精による京都の私塾での使用	338
第4節 井手三郎手写『華語跬歩 東中間答』	344
第5節 おわりに	346
第2章 東亜同文書院初期の中国語教育について	
——御幡雅文『華語跬歩』、高橋正二『北京官話声音譜』から『華語萃編』へ——	351
第1節 はじめに	351
第2節 東亜同文書院の中国語教育	352
第1項 中国語教育の実態	352
第2項 北京語教育	355
第3節 『華語萃編』以前の東亜同文書院の中国語教材について	358
第1項 御幡雅文『華語跬歩』	358
第2項 高橋正二『北京官話声音譜』と『華語萃編』初集	364
第3項 小路真平、茂木一郎『北京官話常言用例』	369

vi	目次
第4節	おわりに
370	
第3章	『華語萃編』初集に見る東亜同文書院中国語教育の変遷
——統計的手法を援用した分析——	377
第1節	はじめに
377	
第2節	初集以前の1年生用教科書
378	
第3節	初集の版本について
381	
第1項	第1版
381	
第2項	第2版
383	
第3項	第3版
385	
第4項	第4版
386	
第5項	第5版
386	
第6項	第6版
388	
第4節	統計的手法を用いた版本の分析
389	
第1項	N-gram方式による数値化
389	
第2項	相関分析
393	
第3項	クラスタ分析
394	
第5節	改訂からみる東亜同文書院の中国語教育の変化
394	
第6節	おわりに
399	
第4章	東亜同文書院の中国語文章語教育について
405	
第1節	はじめに
405	
第2節	東亜同文書院の二つの中国語授業
406	
第3節	青木喬の教科書について
409	
第1項	『実用支那商業文範』
410	
第2項	『支那時文類編』、『現代支那尺牘教科書』（初版）
411	
第3項	『改輯支那時文類編』、『現代支那尺牘教科書』（1924年版）
417	
第4項	『支那時文類編』（第一輯）
420	
第4節	清水董三、福田勝藏教科書について
423	
第1項	『商業尺牘教科書』
425	

◎本書「目次」より——第3部構成

目次	vii
第2項	『商業応用文件集』
428	
第3項	『普通尺牘文例集』
432	
第5節	おわりに
435	
第5章	戦前日本の中国語教育と東亜同文書院
439	
第1節	はじめに
439	
第2節	近代日本の中国語教育
440	
第1項	中国進出・侵略と中国語
440	
第2項	外国語教育とキャリアデザイン
444	
第3項	日本の中国語教育の展開
447	
第3節	東亜同文書院の中国語教育
448	
第1項	東亜同文書院中国語教育の基礎
448	
第2項	東亜同文書院中国語教育の特徴
449	
第3項	東亜同文書院中国語教育の問題とその克服
452	
第4節	おわりに
454	
結言	461
あとがき	471
主要参考文献	477

◎本書は3部構成、第1部・第2部の章立て紹介
緒言 1
第1部 東亜同文書院と日中関係
第1章 東亜同文書院の開校について
——高昌廟桂墅里校舍について——
11
第2章 第二次上海事変時に実施された東亜同文書院生の通訳従軍について——原田実之手記『出蘆征雁』に基づいて——
67
第3章 東亜同文書院の北京移転構想について
123
第2部 東亜同文書院をめぐる人物
第1章 日清貿易研究所の教育について
151
第2章 坂本義孝から見る東亜同文書院の教育活動の変遷
181
第3章 「満洲国」の中国文学翻訳家大内隆雄と東亜同文書院
219
第4章 非正規学生から見る東亜同文書院教育の一側面——水野梅暁と藤井静宣（草宣）について——
257
補章 山田良政伝の系譜
295

◎著者紹介

石田 卓生 (Ishida Takuo)

1973年愛知県生まれ

愛知大学東亜同文書院大学記念センター研究員

愛知大学、豊橋創造大学非常勤講師

愛知大学大学院中国研究科博士後期課程修了、博士（中国研究）

専門は、近現代日中関係史、中国語教育史、近現代中国文学